

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(高校生の部・西部会場)

1 日時 令和7年7月30日(水) 14:00~16:00

2 場所 ウェスタ川越 第2・第3会議室

3 参加者 7名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

私の方で進行させていただきます。よろしくお願いします。

まず最初司会からありましたように、自己紹介と自分が伝えたいことを、簡潔にお話をいただき、その皆さんの意見を中心に意見交換をしていきたいと思いますので、お一人お一人自分の意見を、聞かせていただければと思います。

(A)

まずは県教育委員会の皆様、本日はこのような機会をいただいて本当にありがとうございます。今日はよろしくお願いします。

僕自身は共学化には反対していて、その理由は、今通っている男子校が好きだからということにつきます。100年以上、世紀を超えて受け継がれてきた校風のもと、男子だけで過ごす日々が僕は本当に楽しいです。別学校に通っている多くの生徒は、僕も含めて、別学校に自分の居場所を持っていると思っています。

別学校の良さを分かっているのは在校生自身です。だからこそ、これからも自分の母校が男子校としてあり続けてほしいと考えています。僕が今日伝えたいことは二つあって、一つ目は「別学校＝男女の関わりを学べない」というわけではないということ。そしてもう一つが我々には別学という選択肢を選ぶ、守る権利があるということ。この二つを伝えたいなと思っています。今日はよろしくお願いします。

(B)

今日は、このような機会を設けていただきありがとうございます。

参加理由としては、別学には別の良さがあるため、共学化はしないでほしいってというふうに思っていたからです。私の考えとしては共学化には反対でその理由として別学だと異性のことを気にしないでいいので、新しいことに思い切ってチャレンジができるということがあると思います。異性の目があると、男子にはこのような役割が、女子にはこのような役割が、というふうに役割分担がなされてしまって、自分の思うことに挑戦できないのではないかなと思っています。

また、男子校には男子校の女子校には女子校の良い文化があると私は考えています。実際、私が通っている学校では、体育祭で、団チアというものがありまして、そこでは団の人は男子っぽい格好、チアの人は女子っぽい格好をして踊るというもので、私も実際に団に参加していたのです。

が、本当にそういう経験は今までなかったものなので、新しくとてもやりがいのあるものでした。

また、異性と過ごさなくてもいいという選択肢ができるというのも理由としてあります。実際私は、中学は公立だったので共学ではあったのですが、女子校に入ってからなんか気疲れしなくなっているのがあって、異性と過ごさなくてもいいという選択肢ができるのはすごく良いことだと思っています。

もし、共学化してしまうと、いきなり男女同じ比率にはならないのではないかなってというのが私の意見で、その少ない方、例えば男子校が共学化され、女子が行った時、その女子が肩身の狭い思いをしてしまうのではないかなってというのが少し心配しているのもあると思います。

繰り返しにはなるのですが、選択肢を増やして学校としての伝統を守るためにも、私は共学化に反対します。以上です。よろしくお願いします。

(D)

本日はよろしくお願いします。私は共学化には反対です。理由としては共学化もすごい大事だと思うんですけど、男女別学を必要としている人がいると思います。私の周りの男女別学の高校でも伝統を大切にしているところが多くあるので、私はやはり別学が大事だと思います。よろしくお願いします。

(E)

今回の参加した目的としては、単純に別学校がなぜ共学化が進められてるのかっていうのを知りたいというのが一番で、共学化に対する考えとして、自分としては別学校は必要で、そういう場だからこそ過ごしていける人がいて、実際に自分がそうですし、自分の知り合いもほとんどそういう人なので、そういうところだからこそ、自分がやりたいことができるということがあるんじゃないかなと思っています。以上です。

(F)

まずこの会に参加した理由として、私自身が別学に通っているので、在校生として別学の良さを伝えていきたいと思ったからです。私は共学化に反対です。理由として今年度から女子校に入学し、ものすごく充実した日々を送ることができたからです。その充実した日々を送れるようになったのは、まず異性がないため、共学だった中学校の時よりも気を遣うことがなく、その自分を出すことができ、楽で疲れることがなくなりました。

二つ目は、周りが全員同性だとあらゆる点での男女のいざこざだったりとか、そういうものがないので、クラスの雰囲気がとてもよく、入学した瞬間から皆と仲良くすることができて楽しかったです。もし、共学化をするのならば、倍率が低くなった時、例えばその1倍を切ったりとか、周りからあまり求められなくなった時でいいのかなと個人的に思っていて、1倍を切ったり、倍率がとてつもなく低い別学っていうのはあまり見られないので、まだ反対していきたいなと思っています。よろしくお願いします。

(G)

私が今回、共学校に通っているのに意見交換会に参加した理由は、その問題が全国的にすごく注目されているものだと感じたとともに、日々共学校に通っている中で、別学の学校にしなくてよかったなというふうに感じているからです。ほかの県でも今公立高校の多くが既に共学校となっていて、私立高校でも校名とか制度を変更して共学化が進んでいる中で、埼玉県には別学の学

校が残っていてこのまま残しておくべきなのか、そうでないのかを日々考えていました。私は共学化に賛成していますが、埼玉県公立高校のすべてを無理に共学化にする必要はないと考えています。

男女別学校に通っている人の中には、異性とのコミュニケーションを取ることが苦手な人が多い印象があります。実際に別学の学校に通っている友人に話を聞いた時に、異性とコミュニケーションを取るのが難しいと考えている人が多いなと感じました。将来、男女問わず様々な人と関わりながら働いていくということを考えると、異性との関わりに高校生で慣れていくというのは必要なことなのではないかなと思います。

埼玉県は男女共学も男子校、女子校も選べるようになっているので、中学校の時とか小学校の時とかに異性とのトラブルがあって、高校に通いにくいなというふうに考えている人のために、男女別学の学校を残しておくというのは必要なことだと思っています。本日はよろしくお願いします。

(H)

僕が男子校を志望したきっかけは、小学校・中学校で女子との関わり方が苦手だったからとかっていうわけではなく、学校の学校行事や文化祭が有名で、それ以外にも、競歩大会、球技大会とかの学校行事を全力でやりたかった。中学校でも球技大会や陸上大会もあったけど、女子の目があることによって、素の自分を出せなかった。女子の目があるから、少し格好つけちゃうかなってというのが、自分にも少しあったし、周りにもあったりしました。周りがそうなると、みんなが学校行事に向かって、本当に全力を出し切ってできていなかった。その上で男子校だと、異性の目を気にせずに、本気で学校行事ができるのは、別学ならではのと思いました。

(依田 高校改革統括監)

一通りお話を伺うことができました。ありがとうございます。

共学化に賛成の方も反対の方も、賛成の方も全てではない、とのことだったかと思います。今皆さんが出していただいた意見を中心に、それぞれ考えを聞いていきたいと思っています。

まず、多くの方がおっしゃっていた、異性がない、同性だけの方が楽しい、居場所という表現もありましたし、やりたいことができるとか、トラブルがないとか、そのような趣旨の話がたくさんありました。そこで皆さんに伺いたいと思うのですけれども、学校で学ぶべきこととして異性がない方が学校の学びはよくできるのか、それとも異性がいた方が、よく学べるのか、その学校の学びにはどちらがよろしいと思いますか。同性だけの方がいいか、異性もいた方がいいのか。意見がある方はいますか。「いやすさ」というのはよく意見が分かりました。学校で学ぶことについては、そこに違いがある、ないについて、意見がある人はいますか。

(H)

学校で学ぶっていうのが何について、学ぶのでしょうか。ただ授業を受けるだけのことや、学校生活で自己成長するのも含めてということののでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

どちらでも。同じじゃないかとか、違いがあるとか、どう思いますか。

(B)

元々共学に通っていて、女子校に通っていますが、グループワークとかをするのに当たって、共学の時には少し男子と女子の間で見えない壁のようなものがあって、互いに話しづらいとか意見が交換しづらいといったことがあったのですが、別学に通うようになってからは、そういった壁はないので、自由に意見を交換するようにはできるようになったと思っています。そういう意味では別学の方が学びやすい環境だなと私は感じています。

(A)

僕はどちらにも良いところがあると思っていて、例えば共学では男女が協力していろいろやっていくという場面が多いので、社会に出たら、自分の素を全部出せるわけではないですし、自分の素を全部出すのではなくて、ある程度周りに合わせるっていうことも必要なので、共学ではそういったことは学べると思います。逆に男子校とか女子校の別学校では僕の学校でも部活だったり文化祭だったり、もう本当に気遣いなしで本気でぶつかり合って、いろいろな学びができるので、そういった唯一無二の経験って、別学校で学べることができると思います。

(F)

私は中学校の時に、体育祭や合唱祭などの行事があるんですが、体育祭は男子がまとめるというイメージが強く、合唱祭は女子がまとめてとかそういうことがあったのですが、夏休みの初めの方に私のクラスで文化祭の準備をしたのですが、その時全員が女子なので、例えば女子がまとめる男子がまとめるというのがなくて、全員が積極的に活動を行うことができ、その面では別学の方が積極性っていうのは学べるのかなと思いました。

(G)

意見を交換するときとかに、同性だけで話し合った時に出てこなかった意見とか、こういう視点で見れてなかったなという部分を異性から指摘されて、確かにそうだなと新しい視点や違った視点で話を進めたりすることができるという点で、共学校というのは、有利だと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。ほかにありますか。分かりました。

グループワークの話がありましたね。あとは、どちらにも良いところがあるというご意見もありましたし、女子校の F さんからは、共学の時には男女の役割分担のようなことがあったということ、女子校にはそれが無いという意見があり、一方で G さんの話では、異性との間での学びがあったとの意見がありました。

異性との間で壁があるとの話があって、一方で、協力することに学びがあったということもあれば、男女の役割分担意識のようなものが共学にはあるという話もありました。そこで、話を進めたいのだけれども、それは異性だからということなんだろうかというところについて皆さんの意見を聞きたい。一人一人の人間同士意見が違うこととか、役割分担が違うことがあるということと、異性というもので、学びの違いとか、異性によって何か違いがあることがあるのか。それは、学校のいわゆる教育活動、学校行事、授業とか、そういう中で男女で学びに違いがある、学び方に違いがある、男女で違いがあるのだろうか、どうなんだろうか、そこを皆さんどう考えているのか。皆さんの意見を聞きたい。教育活動の中で、男女で別な教育活動があった方がいいのかな。それとも男女と関係なく学校生活、学校の教育活動を実施した方がいいのかな。どう思うんだろう。考えてみてほしい。皆さんの意見を聞いた後で、県教育委員会の考えも話します。

(A)

違いは多少は僕はあると思います。その違いを言葉にするのは難しいですが、それを感じやすい、学びやすいのは共学だと思います。

(依田 高校改革統括監)

違いがあるけれども、という感じかな。皆さんどう思いますか。

男子用の教育活動、女子用の教育活動と、違う教育活動をやった方がいいと思うか思わないかです。みんなはどういう考えを持っていますか。

(D)

私は中学も公立だったので、共学校にしか通ったことしかないんですが、共学校でそれぞれいろいろな考え方があると思うんですが、私は社会に出てからはやっぱり男子、女子って分けて生活とかするわけではないと思うので、やはり男女一緒に学んだりすることが大切だと思います。

(B)

男子と女子で学ぶ内容を分けるっていうことはしない方がいいと思います。理由としてはこれは役割分担っていうのが進んでしまうので、男尊女卑というか、そういう風潮にもつながってしまうからだと思います。でもそれは国側の問題で、本人たちの感じ方として別学があるっていうことが重要だと思います。

(G)

私は男女別学でもいいですけど、男女別の教育をするっていう必要はないと思います。

理由は、多様な職があるので、無理に男女別れた職とかそういう部分とかはないので、男女別に教育をする必要はないかなというふうに思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し話を聞かせて欲しくなったんですが、男子と女子で違いは、あることはあるけれども、教育内容まで変える必要はないのではないかなという意見が、今のお話だったと思う。同じ教育内容をしようとした時に、男子校と女子校で同じ教育内容でいいのだろうか。男子校と女子校は違う教育内容の方がいいのではないかな。本音としてどうだろうか。女子校や男子校が大好きなのは、同性だけでいることの気持ち良さだけなんだろうか、それとも、教育内容とか、教育活動とか、男子校とか女子校の教育内容の魅力なのではないのだろうか。男子校は男子校らしい教育活動、女子校には女子校としての教育活動、教育内容があるべきだ、特に男子校、女子校に通ってる人、本音はどうなんだろう。

(A)

男子校と女子校で違う教育をする必要あるのかっていうことですよね。違う教育をする必要は全くないと思います。

ただ、例えば共学と別学があって、全員に同じ教育をした時に、別学は周りには同性しかいなくて、共学には男女両方入るという、その違いがあると思っていて、だから同じく教育を受けたとしても、違う性がいるのか、同性がいるのかで変わってくるかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

こちらの発信の方は違わなくても、受信の方に違いが出てくるということですね。ほか意見ある人はいますか。

県教育委員会の考えは、男子と女子に違いがあるかないかは、いろいろな違いもあるだろうし、違わないところもあるだろうし、男子と女子が違うとか違わないとかとは関係なく、男子用の教育とか女子用の教育を考えてはいません。

男子女子に関わりなく、一人一人に応じた教育を進めようと考えています。今、県教育委員会は男子校も女子校も共学も大切な学校として設置しています。それを前提にして、教育の内容として、男子女子ということではなく、一人一人に合った学びを重視する考えです。そうしたときに、男女を分けて学ばせることに重きを置いていないのです。同じ教育をするには、一緒に教育していいということが、考えていることです。

そこで今皆さんが言ったような女子校では生き生きと過ごせるとか、男子校は思い切って素の自分が出せるとか、皆さんにとって大切な役割、学校の意義というものがあることは理解しています。

別学の意義と、一人一人に合った教育を男女別無く行うことと、両方を県教育委員会は考えました。そうした中で、県教育委員会としては同じ学びをするのに男子と女子を分けることに重きを置いていないということなんです。

ただ、男子校、女子校のそれぞれの意義があることは理解していて、設置をしています。

では、皆さんから最初に出してもらった意見の中から意見交換をもう少しさせてもらいます。最初に出ていた意見で、異性が苦手な人がいるから、男女別学の学校の意義がある、という意見があった。これはよくシェルター機能という言葉を使う人がいますけれども、そういう役割、意義はあると思っています。そこで皆さんに聞きたいのは、それが解決になるのだろうか、異性がない高校 3 年間で、生き生き伸び伸びと楽しく過ごすことで、その後、大学行く人もいるでしょう、社会に出る人もいるでしょう、異性との関係を高校で、どのように学んでいけばいいのか、また学ぶことはできるのだろうか、何か工夫が必要なのだろうか、皆さんどう考えているのかな。

(B)

一度逃げられる環境があるっていうことが大事なので、例えばそういう異性と関われない、関わりたくないっていう人が共学に行ったとしたら、多分その人は本当の自分を見失っちゃうんじゃないかなって思う。

(依田 高校改革統括監)

逃げられるところは大切だということだね。

(B)

吹奏楽部に所属しているんですけど、近隣の男子校と交流があって、定期演奏会を一緒にやったりだとか、ウィンターコンサートと一緒にやったりということがあるので、そういう高校同士のつながりってところで、異性との関わり方も学んでいけるんじゃないかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

別学でも異性と関わるができるということですね。分かりました。

(F)

私は異性が苦手だから、女子校に通おうと決めたわけではなくて、その現在通っている高校に行きたいっていうなんか謎の意思があって入学したんですが、先ほど別学校には異性が苦手な人が知り合いに多かったという話を聞いて驚いたのですが、女子校に通ってると異性とあまり触れ合える機会がなくて、いきなり大学に入った時にちょっと苦手を感じる人は多いと思いました。

ですが、高校生というのは、いろいろな男女のトラブルが起こりやすい時期に、一旦離れて、冷静にお互いのことを見ることができる機会があると、大学に行った時にお互いを尊重することができるのではないかなと思いました。

実際に私の母が中学、高校と女子校で、大学から共学に行ったのですが、大学では男子の方が多い大学だったらいいんですけど、母は、女子校出身の方は積極性だったり、変に男子からの目を気にしないから、仲良くすることはできたと言っていたので、そういう面では女子校が必要なかなと思いました。

(E)

男子校、女子校っていうのは、異性関係とか人間関係とかで悩んだ人とかにとっては、逃げ道としてはすごい優秀だっていうのは、入学して思ったことである。自分に関しては人間関係で、大したことじゃないんですけどトラウマがあって、そういう人にとっては、そういう場所って、治療っていうんですかね、そういうものとしては結構良いなと思っています。根本的に解決するかどうかは、本人の意思になるので、それは何とも言えないことなのではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの意見を聞くと、一旦離れてみるのが大切だとか、一度逃げてみることも必要だとか、そういう意見が多かったと思う。そのとおりの機能、役割が、実際あるのだと思います。

別学に通われている皆さんがおっしゃっていることはそのとおりと思っています。異性とのトラブルに限らず、人間関係のトラブルが学校生活において、様々な教育課題になっていると考えています。いじめになってしまうこともあるだろう。不登校の理由になってしまうこともあるでしょう。人間関係をどうするのかは、本当に大きな教育課題だと思っていて、男女間のトラブルを防ぐという機能が別学にあることはよく分かっていますけれども、別学があることで、解決できるとまでは思っていない。

そこで、例えば通信制とか定時制とか、フレキシブルな学校とか、本人のライフスタイルに合わせた学校を作っていく必要もあるのだろうと、様々な施策を講じる必要があると思っています。

別学にそういった役割があって、別学が異性の苦手な人にとって重要だと思っています。一方で、どうすれば人間関係のトラブルを教育課題として、改善を図っていけるのかは、新しい学校、特色ある学校づくりとか、また、日々の教育活動とか様々な対応をしていく必要があるというように思っています。

今別学が重要な役割を果たしていること、その機能があることは理解しています。皆さんの意見大変参考になりました。

あと少ししたら、休憩入れます。

次に共学について皆さんの話を聞きたいのだけれども、共学の時にその役割分担があったことについて話を聞きたいのだけれども。中学校時代とか今高校で共学に通われている人、共学でよくなかったと思うところとか、逆にこういう所はよかったと思うところを教えてください。

(F)

男子と女子って考え方が違うので、女子で出なかった意見、男子で出なかった意見というのを交換できたりするのが共学の良いところだと思います。

少し共学に対するマイナスなイメージなんですけど、去年、中学校に通っていて、いじめというほどではないのですが、少しはぶかれていた。その子はちょっと男子へのボディタッチが多いとか、距離が近いとか、そういう理由でほかの女の子から嫌われている感じで、それを見たときに、男子が悪いとか、そういうことではないのですが、男子がいなかったらこれ起きなかったのになっというのを思っていた。それは共学のデメリットかなと思いました。

(G)

実際に私も共学の学校に通っていて、役割分担というのは行事の時にあって、私の学校の周りが田んぼとかしかなくて、9割ぐらいの生徒がスクールバスで通ってる状況で、残りの何割かが学校の最寄り駅から自転車か歩いてきているのですが、その何割かについては男子が多い状況です。だから、男子たちに文化祭の買い出しを頼んだり、あと、重い荷物を持ってもらったりって役割分担はありました。

(依田 高校改革統括監)

それをどう思ったかな。

(G)

確かにその自転車持ってるから買い出し行ってきてっていう理由は良いんですけど、それがその男子とかその子ばかりに偏っちゃうと、その子の負担も増えちゃうし、その人は野球部で練習に遅れたらいけないんですけど、その買い出しで部活に遅れて、あとですごい文句言ってたなと思ったので、そういうのはみんなで協力してやるべきだなっていうふうに思います。

(H)

中学校の時に合唱コンクールがあったのですが、その時に曲名の「めぐり」っていうものを作ったりしてたんですけど、そこでまあ、1年2年、3年で3回だったんですけど、全部作ってたのが女子で、自分も作ってみたいなと思ったり、男子もいたんですけど、クラスによって違うんですけど、クラスによっては先生が得意そうな女子を集めていたり、クラスによっては話し合ったりとかっていうのもあったんですけど、そういう時に女子が多いと、男子がそこに参加するっていうのは容易ではないかなっていう部分があります。今男子校ですけど、文化祭の準備とか今やるんですけど、そういう芸術的なところとかも含めて全部自分たちで行っていて、女子から遠慮したりしないでいいんだなっていうのがあります。

(D)

私は男女一緒によかったって思うことが多かったです。

中学時代に、体育祭で仕切るのも、女子がメインでやったりとか、あとは合唱コンクールの指揮者、伴奏者、どちらも男子だったり、結構みんな得意な子をやはりやった方がいいとか、そういう尊重ができる学校であったり、クラスだったので、そういう面では、そういう尊重し合えるのだったら、男女一緒にでもすごく良かったと思いました。

(A)

僕もさっきHさんが言っていたように、中学校では男女両方いるので、合唱祭だったらピアノ弾くのは女子だとか体育祭だったら力が必要なのをやるのが男子だとか、そういうバイアスがどうしても無意識にあると思うんですけど、別学校だったら全部男子でやらなくちゃいけないし全部女子でやらなくちゃいけないので、そういう状況に置かれた時に、男子でもこういうのが得意な人いるんだとか、女子でもこういうのできる人いるんだとか、自分の性のできることがもっと広がるというか、そういうのは良いと思いました。

(B)

書類仕事というか、そういうものは、男子が女子に押し付けて、質疑応答とかがあるじゃないですか、そういうのは男子が仲の良い男子にするもので、1 回だけ私も質問をしたことがあるんですけど、結構冷たい目で見られたというか、そういう感じだったので、そういうのがあるのはちょっと微妙かなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

それは、さっき壁があるとBさんが言ったようなことかな。

Dさんが言ったように、男女に分けずに一人一人が持っている個性に応じて教育活動が進められることもあればこれは女子ということで、女子だけ集められたとの話もありました。

県教育委員会は、男女を分けた教育を考えているのではなくて、一人一人の個性に合わせた教育が必要だと考えていますとの話をしたと思いますけれども、現実には、学校も社会の中の一つだから、社会のこれまでの男女の役割分担意識みたいなものが教育活動の中に入り込んでいることはあると思っています。特に、それは女子校は、女子が重いものも持つし、男子校は芸術的なことも、男子がやらなければいけないというところからすると、男子校や女子校はそういうことがあまりないけれども、共学校は、男女が一緒にいる社会の縮図なので、課題が顕在化してくることがあると思っています。

そこで、県教育委員会は、男女の役割分担意識を学校生活の中で一人一人に刷り込むことはよくないと考えています。Dさんが話してくれたように、女子も力持ちの人がいるでしょう、男の人だって重いものを持つことが苦手な人はいるでしょう。男の人だって美術や音楽が好きな人もいます。男子用、女子用と考えないで、生徒と先生が話し合いながら、自分たちの学校の教育を考えてほしいと思う。男子校だから、女子校だから、男子だからこの競技とか、女子だからこの演目とか、性別による役割分担意識を取っ払って、何をやりたいのか、自由に意見を出し合って、先生たちと生徒が話し合ってほしい。先生たちには、生徒に身につけてもらいたいものがあるから、生徒がやりたいことだけという訳には、いかないけれども、生徒一人一人の考えを集約する中で、先生たちと話して学校の教育活動を考えてほしいと考えています。共学も問題があるけれども、男子校や女子校にも危ないところが隠れているのではないのかな。それぞれが、気をつけていかないといけないと思っています。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

休憩時間を過ぎたので、話を続けていこうと思います。私の隣にいる出井さん、共学の校長先生をやっていた方なので、出井さんから少し話をしてもらおうと思います。

(出井 県立学校部副参事)

まず皆さんいろいろ意見ありがとうございます。

いろいろな皆さんからいただいた意見をお聞きしていて、そうだなと率直に感じました。私が皆さんにお伝えしようという視点は、学校は、校長として、先生方としてどんなことを話してるのか、どういう思いを持ってるのか、というところもお話しとかしなくてはいいのかな、というふうに感じたので、少しお話ししたいということです。

基本的には、学校は、男女で学びを分けようなんて考えは全くありません。目の前にいる子供たちに、平等に、同じことを教えていきたいというふうに思っています。

共学校では、男女が、同じ場所にいるわけで、その中で教育を受けていくことになるんですけど、一人一人に合った教育をしたいと思っています。

別学校でも共学校でももちろん同じ内容で学んでいかなければならないと考えていて、学校でも意識的に話をしている。学校の中でも、ちょっとおかしいなと思うことはあります。

例えば進路指導、面接指導で男の子はこういうふうにするんですよ。女の子はこういうふうにしてこうやってやるんですよと、日本古来でそうやって教えてきたところがあるのかもしれないけど、今までの慣習で教えていくものなのかどうか話していました。それは、相手がどう受け取るかとか、女性男性みたいな話ではなくて、人として採用されるよう指導する点と考える。

例えばジェンダー平等もそうです。男の性をもちながら高校では制服は女性の制服を着て通学したいと学校に入学してきた子がいました。なぜ共学校に入学しようと思ったかっていうと、シェルター機能と先ほど話が合ったけど、共学校に行って、私が今感じていることを皆さんと一緒に考えたい、そういう思いで入学してきた生徒がいました。

それはその子だけの問題かっていうと、そうではなくて、やはりみんなの問題なんですよ。だから、クラスの生徒たちともそのことに対して考える時間はすごく持ったし、先生方も当然会議の時間をかなり使って考えジェンダー平等の問題を身近に考えることができた。先ほど言った進路のこともそうだし、ジェンダーのこともそうですけど、今まであったようなこと、これはこうではなくて、やっぱり多様な環境の中で一人一人に合った教育をしてやらなければいけない。これは男女別学校でもそれを学んでいるという話もあったし、その場その場で当然同じような学びをしていかなければいけないとのことをどの学校も考えてるんですけど、やっぱり変化に応じてそこでなければ学べないこともあるということも事実なんです。

当然学校としても、一つ一つ問題を解決していきたい。シェルター機能となるよう、スクールカウンセラーとかを配置して、そういう場所を共学校の中でも作ったりしています。先生方に話せない子もいるし、いろいろな考えを持ってる一人一人がいるので、一つずつ解決していきたいというふうに考え取り組んでいます。

その学校に行きたい、その学校に入りたいんだと、どの高校もそういうような学校に、男女別学校、共学校と関係なく、していかなければいけないというふうに感じました。

(依田 高校改革統括監)

また意見交換していこうと思います。

休憩の前、共学校の課題も皆さんからお話いただいたようにいろいろなあるということです。別学校にも、様々な課題はあると考えています。

別学の皆さんに、学校行事であるとか、教育活動を通して見て、ジェンダーから見た課題についてどう考えているのか、順番に話を聞いていこうと思う。

Eさんは男子校だけれども、何か気付くことはあるかな。

(E)

自分が見てきた中で思ったのが、異性の目がなくて自由になるということが、それが必ずしも良いところに転がるわけではなくて、ちょっと危ない方向に転がっちゃうこともあって。というのも、簡単に言うと過激な人が出てくるんですよ。男子校だから、まあ笑い事、男子校の中だからこそ、まあ笑いごとで何とかなってるんですけど、服装ですかねやっぱり一番気になるのは。男子校あるあるなのか、うちの学校あるあるなのか分からないですが、体育着あるじゃないですか、これをなんかめくって、下の方もめくって、なんかもうほぼほぼなんか、それって大丈夫なのかな、倫理観って言うんですかね、大丈夫なんですかねとか。平気でなんか上裸になる人がいたり、普通にいろいろな、ちょっとそれ外でやったらまずくないっていうのもよくあるんで、そこは結構個人的には大丈夫なのかなと思って気になっている点ですね。

(依田 高校改革統括監)

具体的な話をしてもらいました。

やりすぎっていうふうに思うことがあるということだね。Fさんは気になることがありますか。

(F)

私も同じで、女子校でも、その体育着まくったりする人はいて、やっぱり体育祭とかで盛り上がってたら女子しかいないみたいな感じでタンクトップみたいにしてる人はいました。あと、さっき考えたのが、別学だと異性を理解するっていうことは難しいのかなって思います。理解できなかったとしても、気遣うとかだったりとか、やっぱり共学に通ってたら実際に異性がいるわけなので、こういう時はこうしたらいいんだみたいな、勉強みたいな感じで覚えるとはちょっと違う、自分で感じ取るようなものが、やっぱり同性だけだと自分のイメージの、異性に対する理解とかになってしまうので、実際に異性と関わった時に、あれなんか違うってなってしまうのは問題かなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい。Gさんは共学校だけどう思ったかな。

(G)

私、共学なんですけど、さっきの体育着をタンクトップみたいにするみたいな話あったんですけど、共学でも普通に女子とか男子問わずみんなやってて、最近すごい暑くて、うちの体育着の生地がちょっと厚めな感じの生地なので、結構袖まくってる子とかいて、男子とかも結構、さすがに上裸になったりはしないんですけど。文化祭の中庭にステージを置くんですけど、そのステージ作業してる子が、普通にタンクトップ一枚で作業してる子とかもいて、それはうちの学校だけだと思うんですけど。

(依田 高校改革統括監)

中学校の時の共学と、高校の共学は、Gさんの中では違いがあるのかな。

(G)

中学の時は結構みんな遠慮していた感じがあるんですけど、私の高校は全然遠慮とかはない。仲の良い学校生活を送っていて、知り合いとかもほとんどいないので、またそれぞれ、館林とか栃木の方からも来ていて、全然知り合いがいらないので、中学の時とか忘れて、みんな高校で楽しくやってると思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとう。

(G)

男女別学の学校のInstagramとか見てる時によく動画とかが流れてくるんですけど、なんか、異性の目がないからなのか分かんないんですけど、すごく楽しそうに行事を運営していたり、行事をやっていたりしてるなっていう現象があります。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。はい、Hさんどうぞ。

(H)

体育着とかの話で言うと、確かに体育終わった後とかは暑いですし、教室の冷房の設定温度も決まっているんで、暑いから授業と授業の間の休み時間の間だけは、上裸で過ごす人も一定数は僕のクラスはいるんですけど、次の授業が始まる 3 分前とかにはもうみんな、体拭いて服着たりしておしゃべりもしてますし、ほかのクラスがどうなってるか分かんないんですけど、1 年の時も 2 年の今のクラスもその辺をしっかりしているっていうことと、あと部活、僕バレーボールなんですけど、体育館に冷房ついてはいるけど使えないので、終わった後本当に暑いんですけど。バレーとバスケットで女性の先生が顧問についたりするんですけど、この先生たちがいるところでは皆ちゃんと服着ているけど、終わって片づけのときとか暑いし、その時だけ上裸になったりってことがありますけど、さすがに下まで脱いだりとかもしないし、体育館出るときにはみんなちゃんと服着たりしてるんで、その辺に対してそんな心配を僕はしていません。

(依田 高校改革統括監)

女性の先生が行くところでは、みんなちょっと違ったりするかな。

(H)

さすがになんかまずいんじゃないかって。

(依田 高校改革統括監)

ジェントルマンなんだね。Dさんは共学だけど、なにかあるかな。

(D)

私の学校は、スポーツクラスって男子だけのクラスがあるので、なんか少し別学っぽい要素を見たりする時があるんですけど、そこを見ると、やはりなんか、さっきEさんが言っていたように、ちょっと過激過ぎる人もいます。やっぱりスポーツガチでやってるから、すごい燃えてるのか、すごい大丈夫かな、みたいな格好で歩いてる人とか、ちょっとあまりよろしくないような言葉を使っている人がいたので、ほかの学校には多分ないと思うんですけど、そういうちょっと、うん大丈夫かなっていう行動をしている人がいたので、それ見るとちょっと、うーんって、ちょっとなんか大丈夫かなって思っちゃう時があります。

(依田 高校改革統括監)

やりすぎということかな。Bさんはどう思うかな。

(B)

女子校になって男子の目がないからか、彼氏ほしいみたいな話する時に結構過激というか、え、理想が高くないかな、みたいな、そういう人が多くて、大丈夫かな社会に出てからってちょっと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい。Aさんはどう。

(A)

自分の高校は男子校で、ノリが良い人も多いですし、結構なんか休み時間とかしょうもないこと言ってる人もいますけど。まあでも、皆がノリが良いわけじゃないというか、ちゃんと歯止め役の人もいるので、全体としてはうまくまとまりが取れてるかなと思います。

ただその男子校で男子しかなくて、そういう環境で本当にもう特殊で、大学からはもうほとんどが男女一緒に過ごすってところなので、自分の高校では、男子だけで 3 年間過ごして、その後社会に出ていくっていうのをリハビリって言ってるんですけど、だから大学に入ったら明らかに違う環境になるので、あそこに対しての慣れはちょっと大変なのかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。共学についても、別学についても、ちゃんと考えていただいていて、とても嬉しく思います。今、皆さんがおっしゃったのは、自分の友人とかクラスの話が多かったと思うけれども、例えば学校行事などについて、自分の学校や、自分の心の中をちょっと見てほしい、男子校だからこれができて、共学ではできないとか、女子校だからこれができて、男子校ではこれは無理だとか思うような、教育活動があったら聞きたいのだけれども。

(F)

学校で球技大会と体育祭がもう終わったんですけど、やっぱりその、中学校の時と比べて、結構みんな全力を出してるなみたいな。私自身も共学に通ってた時は、走る時とかちょっと前髪を気にしたり、容姿を結構気にして、走ると顔がちょっと真剣になっちゃうので、あんまり本気で走れなかったりとか、下を向いてたりとかしたんですけど、女子しかいないから、そういうの気にせず、リレーとかも全力で、もうどうなってもいいみたいな感じで走ることができたので、その楽しさっていうのは女子校の生徒が、まあ別学ならではなのかなって思いました。

また先ほどBさんが言ってたように、通っている女子校には団チアというものがあって、私も実際に団に属してダンスをしたのですが、やっぱり共学だったら、ちょっと異性の目を気にして、私ダンスが苦手なので、共学だったらできなかったなってちょっと思ってた。だけど、あんまりまとまらないんですけど、団チアに入って、苦手だけど挑戦をするっていうことができて、実際にダンスし終わった後にやってよかったな、楽しかったな、もっとやりたいなって思うんですよ。そういう思いが出てきたっていうのは実際に女子校に通ってよかったなって思っています。

(依田 高校改革統括監)

今良い話を伺いました。例えば球技大会とか、体育祭の話があったけれども、これは共学の時と変わらない種目だったり、競技なのかな。

(F)

はい、同じ感じですよ。

(依田 高校改革統括監)

それは、Bさんもそう思うかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

ほかの人はどうかな。Eさんどう。

(E)

ほかはどうなのかちょっと分かんないんですけど、文化祭とかでうちの学校、女装コンテストっていうのがあって、少なくとも自分も小学校、中学校は共学だったんで、共学の中でそういう女装コンテストってのはなくて、やっぱりそこは、極端な話、そういう女装とかやってみたいよって人が、男子校でそういうものがあるからこそできて、共学ではなかなかそういうはないからできないっていうのはあるんじゃないのかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

はい。ほかにもありますか。

(B)

新入生歓迎会のときにちょっと衝撃を受けたのが、自分の友達とかがそのステージに出てる時に、その人の名前を呼んだりとか、キャーキャー言ったりとかっていうのが女子校で文化としてあって、ペンライト振ってる人とかもいてすごく良い文化だなんて感じなのと、あと共学だと、そういう盛り上げ役っていうのはやっぱり男子が主にやるような感じだったので、新鮮で面白いなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

そういう文化があるんだね。分かりました。学校での学びは、いわゆる教育制度とか教育のシステムとしては、男子校であれ女子校であれ共学でも、同じ学習をすることになっているのです。ですから外形は、同じ勉強ができるようにはなっているけれども、一方で、システムとか制度になっていないところで、隠れたカリキュラムという言い方もされるけれども、男は汗かいて汚くてもいいとか、女の人はおしとやかでみたいなことを、男女で分けるような教育を、一人一人の個性ではなくて、性別の属性によってするようなものが、忍び込みやすいというようには思っています。そこは、みんなが話しているように、共学だと遠慮するとか、共学だとできない、別学だからできるとの考えの中に、もしかすると、女子だからとか男子だからとかといった思いが、女子の役割、男子の役割、将来の仕事も男子はこういう役割の仕事、女子はこういう役割の仕事とかという思いが、自然のうちに忍び込んでくる可能性があるなと、そこに気をつけていかないといけない。共学の課題と別学の課題と、どちらも気をつけていかないといけないと思っています。

さっきの話の女装コンテストが決してよくない行事だと言うつもりはありません。ただ、女性の評価の価値観のようなものが、例えばみんながこの後、数年経って仕事をするようになって職場に行きます。男性も女性も協力して一緒に仕事をする中で、男の人の女の人を見る評価が、仕事の評価ではないところで女の人を見る評価をするような文化は、これは職場としてはよくないですね。そういうところで女の人を見る評価が、女装コンテストをする中で、自然と刷り込まれてしまうとするのだったらそれは気をつけた方がいい。

だけど、女装したって良いわけだね。男の人だって、スカート履きたい人だっているでしょう。いわゆる多様性をみんなで認めよう、いろいろな考え方やいろいろな人がいることをみんなで認めようという中で、みんなで楽しく文化祭の行事としてやっているのだったら、良いとか悪いとかということはない。行事自体が良い悪いではなく、どういう考え方でやっているのかによる。自然と3年間過ごす中で刷り込まれていってしまうことを気をつけようと、それは共学校も一緒です。

残り30分を切ったんで、今日の最後の話題になっていくんだと思うんだけど、さっき、Fさんが、倍率の話をしたと思う。これはこれまで意見交換をしてきたこととは別次元の話として、意見交換をしていきたいと思っています。

最初に県教育委員会の考え方を言うと、男女別学の共学化に関連して、倍率のことを考えてはいないことは、まず申し上げておきます。最初の方で言ったように、男とか女の人用の教育をやっていることはなく、同じ教育をやる中で、一緒に同じ場所で、同じ先生から学ぶことが基本的には県教育委員会の考え方なんですということで、男女別学の共学化を、総合的に別学の意義も含めて、別学の大切さも十分理解をしながら、共学化の推進という立場なのですとの話をしてきました。それとは全く別の話として、Fさんが言った話っていうのが、絡んできてしまうところがあると思っています。

今、例えば女子大でね、武庫川女子大という関西の方の大きな女子大が、この後学生が集まりづらくなることを大きな理由にして、共学になることを発表して、大きな話題になっていたりする。県教育委員会は、直接、男女別学を共学にするのに、倍率が低いからとの理由で考えているのではないことを前提にした上で、まず、どのくらい子供がこの後減るかをみんなと共有したいと思っているのだけれども、例えば高校入学とすれば今年生まれた赤ちゃんが15年後ですから、15年後でもいいんだけど、中学校3年生の数がどのぐらいの割合で減っていくと思うかな。

(H)

10%ぐらいですかね。

(依田 高校改革統括監)

10%ぐらい。Dさんどのぐらい減ると思う。

(D)

同じくらい。

(依田 高校改革統括監)

10%ぐらいだと思う、大体みんなそれくらいだと思うかな。

(G)

30%くらい。

(依田 高校改革統括監)

うん、3割ね。Fさんも30%くらい減ると思う。

県教育委員会の将来推計があるので、事務局ちょっと教えてください。

(事務局)

はい。こちらの資料は県教育委員会が作成した資料です。公立の中学校等卒業者数について、令和6年3月から令和20年の3月までの14年間で、約58,900人から約44,100人、約14,800人減少することが県全体で見込まれています。割合でいうと約25%程度が14年間で減少していくという状況です。

(依田 高校改革統括監)

埼玉県全体で25%ぐらいの中学3年生の数が14年間で減る。特にこの辺の西部地域はどうか。

(事務局)

はい。4地区に分けて、この西部地域は「南西部・川越比企・西部」としてはいますが、18,042人が12,807人と、5,235人の減少となります。割合でいうと、約29%の減少という状況です。

(依田 高校改革統括監)

そうですね、3割って答えた人はあってるかもしれないね。南西部・川越比企・西部地域については3割。

皆さんにここで理解をしてほしいことは、高校に入学する生徒が減ってくるとなった場合にどうするか、二つやり方があると思う。一つ一つの学校の規模を小さくして、学校の数を維持する考え方と、あとは学校の数を減らすという両方の考え方があると思う。小学校だと、1学年で1クラスという学校もあると思う。

学校は各地に残して、クラスを減らす考え方もあるけれども、高校だと難しいと思っています。小学校だと、担任の先生が国語も算数も、大体教えてもらえるけれど、高校は、国語の先生が数学を教えるのは難しい。世界史の先生が物理を教えると言ったら、ちょっと頼りない。学びの質、皆さんの能力に応じた学びを、その高校では提供しないといけない。みんなの能力に応じた学びを提供する必要がある。となると、先生の専門性が求められる。専門的な資格を持った先生に教えてもらう必要がある。そうすると、先生数を揃えなければいけなくなってくる。先生数は、法律で生徒数に応じて決まっていて、教育の質を担保するため法律で決まっている先生数を確保しようとしています。

とすると、一定の学校の規模を可能な限り残したいと思っています。そうしたときに、学校の数を減らしていかなければいけなくなる、さらに学力だけじゃなくて、高校には農業や、工業、商業を学びたい人も、普通科の教科を中心に学びたい人も。自分のライフスタイルに合った学びができる定時制とか、通信制とか、いろいろな学びの種類がそれぞれの地域に、なるべくバランスよく、自宅から通える範囲に配置できるように努力をしたいと思っています。

学校の数が減る中で、学びの種類を残しながら、学力と、学ぶ内容の選択肢を、学校を減らす中で、バランスを考えながら配置していく必要があって、生徒が南西部・川越比企・西部地域なら

3 削減の中で、再編整備という言葉を使うのだけれども、どうしていくかを考えているところなのです。

そうしたときに、似た、同じような学びをしていて、学力にも大きな差がない、ある程度同じ学びが提供できる学校を、その地域にどれだけ残していくかという議論がこの後出てくるということが、さっきFさんが言った倍率の話にリンクしてくるところだと思います。

さっき倍率とは関係ないと話をしたんだけど、全く倍率が意味がないっていうことを言っているわけじゃなくて、多くの中学生が行きたい学校と行きたい人が少ない学校はあるのだけれども、それ以外に、一定の地域に学びの内容と学力による選択肢の提供を考える際には、共学も別学も関係なく、再編整備を考えていかないといけないと考えている。

県教育委員会は、何十年も昔から共学を推進していきますという立場を持っていて、一方で別学の意義もあるし、別学の重要性も、皆さんのご意見があったように、しっかり受け止めています。これまで県教育委員会は推進すると考えながら、各学校それぞれの事情があったり、地域性があったり、生徒や卒業生の考えもあるから、各学校それぞれ、今後の学校のことを考えてくださいと、共学と別学の選択を学校の考え方を尊重してきた。

県教育委員会が主体的にこれから共学化を検討しますと言っているのは、そこに大きな理由があります。共学も別学も、地域の中で、どの学校をどうしていくのか考えなければいけない時に、各学校に考えてくださいとは言えないので、県教育委員会が主体的に考えていく方針を打ち出したところなのです。

今の私の話について、皆さん意見ありますか。

(H)

農業高校とかを増やす際に、今そもそもどのくらいの人々が農業高校を志望しているか分からないけど、割合としては絶対に普通学科の方が多くの中で、それに3割とか減っちゃう中で、各地域に1校ずつ作ったりした時に、そこに本当に人が集まることになるんだろうか。作った方がいいけど、人も減ってくし、元々割合が少ないしって時に、そこにも教員の数を増やさなきゃいけないとすると、なんだかなと。

(依田 高校改革統括監)

そのとおりだと思います。生徒が来ない学校を残してもしょうがないからね。ただ生徒の意思だけではなく社会で何が求められているのかも重視しなければいけないと思っていて、農業は皆さん生きていく上で絶対必要なことですよね。農業を今後担っていく人材をどう育成するかという視点で、農業高校の学びも、コンピューターだとかAIだとか、バイオテクノロジーだとか、昔とは違う学びが求められている。

そういう中で中学生に農業高校の学びを理解してもらえるようにしていく必要があると考えています。魅力化とか特色化と呼んでいるのは、そうした新たな学びのことです。この地域であれば、昔川越農業高校という学校がありました。今川越総合高校になって、農業を学びながら、自分の進路を様々な学びとミックスしながら学んでいける学校になっています。従来の学校にはなかった学びを合わせて、新しい学びのある学校にして、中学生に魅力を打ち出すことで、将来必要な産業に携わる人材を育成していきたいと思っています。社会にとって、将来にとって必要な人材をどう育成するのか、学びたいと思ってもらえる学校をどう作るのかは大きな課題だと思っています。

普通科も、これからはいろいろな普通科がある。地域に出て学ぶような学びをする普通科があってもいいとか、ボランティアなどをしながら、机上の、教科書中心の学びではない学びができ

る普通科もあっていいとか、消去法で選ばれている普通科を、この普通科での学びをしたいと思ってもらえるようにしていくことも必要だと思っています。

例えば中高一貫高校とか、海外の大学の入学資格が取れるような、国際理解教育を学べるプログラムがある学校とか、特色のある学校を作った時に、男子だけしか学ばせんと女子だけですというわけにもいかないと考えると、男子校女子校の役割を理解しながらも、県教育委員会がどう再編整備を進めていくのかを考えていく必要があるので、去年の報告書の中で、県教育委員会が主体的に推進する立場を打ち出したということです。

今の話について、意見はありますか。

(A)

今少子化もあって、県教育委員会の方々も本当にいろいろな視点から、高校の再編作りを考えている中で、僕としては農業だったり、商業だったり、いろいろなことを学べる学校があって、いろいろな選択肢があるじゃないですか。そのいろいろなことを学べる選択肢の中に別学があってもいいんじゃないかなと思っていて、現に今ここにいる生徒の中でも、別学に通ってる人がたくさんいて、別学を求めている人も多いので、だから数ある高校の特色の一つとして、別学がこれからもあり続けてほしいなと思ってしています。

(依田 高校改革統括監)

はい。分かりました。どうぞ G さん。

(G)

再編整備とかで男子校とか女子校が、人が少なくなって、もし合併するっていう選択肢が出てきたら、私の意見なんですけど、女子校同士を合併させるとか、男子校同士を合併させるとかっていうふうにした方がいいかなっていうふうに思ってます。

(依田 高校改革統括監)

そうしたら男子校も女子校も、少しずつ残すことができるという考え方かな。

(G)

通にくい人も出てきちゃうから、例えば同じ電車の路線の中で合併するとかっていうふうにした方がいいのかなっていうふうに思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。D さんどうぞ。

(D)

さっきのGさんの、人数が少なくなってきた時に、女子校同士を合併する、男子校同士を合併するっていう意見で、私は男子校と女子校、近いところが合併して、男子部、女子部って作ってもいいのかなっていうふうに思って、やはり別学っていうものは大切にしていきたいなっていうふうに思ったので、そこでやっぱり少し合併するにはちょっと遠いとか厳しいところもあると思うので、なら男子部女子部って作って、そういうふうにしてもいいのかなっていうふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

さっき、男子クラスがあるとかって言っていたね。

県教育委員会の意見は、男と女それぞれの性で分けて教育をする必要を考えていません。一人一人男女関係なく、個性にあった教育を提供したいと思っている時に、男女が一緒に学ぶことに意義があると考えています。

ただ、皆さんの今日の意見についてはしっかりと受け止めて、教育委員一人一人にちゃんとお伝えしますので、安心をしてください。

(H)

令和6年の8月22日に出た措置報告書のところの、中学生の「男女別学校は、共学化した方がよい」ってところの理由で、三つまで選択できるんで、22.6%の人が「異性を理解して認め合ったり仲よくできる、又は、ジェンダー平等に対する理解が進むから」ってあったんですけど、まずこのアンケートがどこまで県教育委員会の考え方に反映されているかは別として、「異性を理解して認め合ったり仲良くできる」っていうのと、「ジェンダー平等に対する理解が進む」っていうのが「又は」って同じように扱うのはどうかなと思って。

男子校とか女子校だと、よくも悪くも同じ性別しかいないわけだから、ジェンダー平等も何もその人の個性で、その人の能力を見たりして、じゃあこういう分担してやっていこうっていうのがあったりするんで、「異性を理解して認め合って仲良くできる」のは、その共学の良いところだと思うんですけど、「ジェンダー平等に対する理解が進む」っていうのは、むしろ別学の方ができるんじゃないかなっていうのがあります。

(依田 高校改革統括監)

今Hさんがおっしゃったことは、今日皆さんと意見交換をしたように、共学によくないところはあったと思う。女子と男子で役割分担があるという話だった。

一方では、Dさんがおっしゃったように、共学であっても、男子女子の区別なく、一人一人自分の得意なことができているとの話があった。共学とか、別学の良し悪しより一人一人の考えが重要だから、学校の先生に注意をしてもらう必要があることが、今日皆さんからの意見を聞いてよく分かりました。また、別学の方が「ジェンダー平等に対する理解が進む」という意見も多くあります。特に女性の社会進出を女子校こそ担っていると、お話をする方がいらっしゃいます。

私どもとしては、別学、共学のどちらも気をつけなければいけないところもあるし、良いところもあるという認識でいます。Hさんがおっしゃったご指摘はよく受け止めていきたいと思います。

今日の感想などがあれば、皆さん一言お願いします。

(E)

この会に参加して、いろいろな考え持っている人もいて。男子校とか女子校の共学化をどうするかっていう考えに、いろいろな視点から見れて結構有意義だったなと思いました。

(F)

私の母が自分の学校のPTA本部で役員として活動してるんですけど、その時になんかもう共学化がもう決まってるみたいな話を聞いたらしくて。

(依田 高校改革統括監)

どこで聞いたのだろう。

(F)

うちの母も聞いただけなので、今度PTAの会長になるっていう方が、今のPTA会長の人から聞いたっていうのを聞いて。

(依田 高校改革統括監)

個別の学校が共学になることは決めていません。共学化を総合的に検討しながら推進していきますという、今後の方向性を打ち出しているということです。別学の意義はいろいろな方がおっしゃっていますので、これからも伺っていきますということも併せて言っています。

(G)

私は共学の目線から結構お話ししたんですけど、実際に男女別学の学校に通ってる人とかの話を聞いてすごく良い機会になりました。友達からだ結構意見が偏ってしまうので、今日まで知り合いとかじゃなかった人から、直接話を聞くことができたのがとても良い機会になりました。ありがとうございました。

(H)

今日こうやって共学の人からの意見とかも聞いて、自分が今まで思ってたこととちょっと違うところもあったりしたんですけど、それでも高校再編とかの話もあって、男子校女子校とかって別学を残すのも大変だなと分かったんですけど、例えば自分が通っている男子校だったら、音楽部、吹奏楽部、古典ギター、弦楽、合唱、あと軽音楽なんですけど、そういう音楽系の部活がたくさんあって、それに対して在籍してる人も多くて、そうやって、とりあえず共学とかだったら女子が多いような部活とかでも、とりあえずチャレンジしてみるってことができる環境は大事だと思うので、これからも残していったほしいと思います。

(D)

自分は共学の目線からいろいろお話することができて、別学の方からのいろいろな意見も聞けてとても良い機会になりました。ありがとうございました。

(B)

私は女子校に通っているんで、女子校の生徒としての目線でしか話せなかったんですけど、共学の人とか、男子校の人とか、色んな視点から話を聞いたのはすごく勉強になったのと、あと単純にこういう機会を設けてくださって、県教育委員会とかの方に自分の意見を忌憚なく話せたっていうのがすごく良い機会だったなと思います。ありがとうございました。

(A)

今日は本当に別学校、男子校女子校、そして共学校の生徒が一同に会して話すという、とても貴重な機会で、こちらも本当に楽しかったですし、何より我々の学ぶ場所である別学は、どういう形であり、これからも残していったほしいなと思いました。今日ありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

こちらこそありがとうございました。

共学、男子校も女子校も県教育委員会はその学校も重要だと思っています。大切な学校だと思っていますので、そこは皆さん理解をしてください。今日は本当にありがとうございました。